

田和山通信7

平成30年弥生子 2018年7月 編集:堀 暁

平成30年度乃木小学校田和山学習

乃木小学校と毎年連携して行ってきた田和山学習、今年を対象が3年生となりました。総生徒160人のうち、40人が歴史班、120人が3班に分かれて森の勉強を行いました。

歴史班は10人ずつの4班に分かれ、田和山館、茅葺建物、お堀、頂上の順で先生役の会員の説明を聞いたり、質問しながら見て回りました。

今年は3年生で、どこまで判ってもらえるか、心配でしたが、皆さんの質問も的を得たものが多く、授業として成功裏に終わったと思います。」

田和山学講座

田和山サポートクラブでは、6月から11月にかけて毎月第一土曜日10-12時に田和山古代史講座を開講します。

史跡指定から15年を経て、この間の考古学や古代史研究の進捗を参照しながら、田和山遺跡の意味を改めて問い直します。

日程:毎月第一土曜日、いずれも午前10-12時

会場:田和山館

定員:30名、先着順

6月2日「日本列島の弥生文化」会長・田中義昭

7月7日「弥生時代と集落の形成」会長・田中義昭

8月4日「環濠の構造と機能」八雲立つ風土記の丘所長・松本岩雄

9月1日「田和山遺跡の調査から」松江市文化財課長・飯塚

10月8日「弥生時代の城」理事・今岡稔

11月3日「田和山の正装」理事・三宅博士

田和山サポートクラブの皆様も、新しい知見を加えて、今後の説明などに役立てて下さると嬉しいです。

6月2日第1回目のレジュメもあります。欲しい方は2回目、3回目に参加ください。

日本列島の弥生文化 田中義昭先生講演

1) 弥生文化の基軸要素

①食料生産経済に基づく農耕文化、②鉄器、青銅器の金属文化、③漢字文化への包摂(田和山出土の石硯)、④厚葬と首長制・階級社会へのステップ

2) 弥生文化の時空間

①弥生土器の年代編成、②稲作農耕の出現と広がり、③放射性炭素による年代測定

3) 東アジア農耕類型とその広がり

①中国大陸の農耕類型と古代社会、②朝鮮半島の北と南

4) 弥生文化の中と外

①欠畜水田稲作の展開、②金属文化の様相、③多様な地域性の形成

④文化の形成、交流の相関

5) 弥生時代の特質とその意義

山陰遺跡ネットワークの本年度の研修は田和山サポートクラブが実施、10月4日(木)に県埋蔵文化センター、島根大学博物館、鹿島民俗族資料館を廻り、佐陀ハウスで懇親会です。詳しくは8号でお知らせします。



掘立柱建物でお話を聞く

5月7日定例連絡会の話題提供で、島根大学教育学部教授福田哲之氏をお招きし、中国古代の文具について講演していただきました。

1. 中国古代の筆(新石器時代の彩文土器一漢代の例)
2. 殷代後期に始まる筆書き文字
3. 竹簡と木簡、そして紙
4. 戦国一新時代の石硯の形制
卵石硯、円硯、長方形板石硯
5. 石硯、研石の消長
6. 朝鮮半島出土の長方形板石硯
7. 田和山の石硯と研石はセットで出土しており、おそらくは漆塗り盒に入っていたであろう。文字を書いたかどうかは不明であるが、当時も非常に貴重なものであったろう。

今後の予定

6月4日(月)16時~18時

定例連絡会 話題提供 副会長 堀 暁
「不昧公没00年に寄せて」

7月2日(月)16時~18時

定例連絡会

7月7日(土)10-12時

田和山学講座第二回 会長 田中義昭先生

7月7日(土)12-15時

田和山まつり 七夕祭り

7月8日(日)11-15時

妻木晩田遺跡で運営幹事会

9月3日(月)16-17時

定例連絡会